

## 令和4年9月定例会 総括審査会

### 伊藤 達也委員

伊藤達也委員

しんがりを務める公明党の伊藤達也である。今日は私の誕生日であるため、誕生日プレゼントのような答弁をよろしく願う。

初めに、带状疱疹の周知について聞く。

私の周りでも、带状疱疹を発症する者が非常に多い。免疫が低下することで水痘带状疱疹ウイルスが再活性化し、神経節や神経繊維束に障害が起り強い痛みが生じる。発症は50歳代から上昇し、80歳までに3人に1人が罹患すると聞いている。本県には50歳以上の県民が約94万人いるため、带状疱疹で約22万人、带状疱疹の神経痛で約4万8,000人が罹患するとされている。

ワクチンが有効であり、私も50歳を過ぎたためワクチンを接種してきた。その際に医者からは、生ワクチンだと1回の接種でよいが、効き目が50～60%、効能期間が5年間と言われた。60%は少し低いと話したら、不活化ワクチンであれば2回接種する必要があるが、90%の効き目があり、効能期間も10年間あるとのことだった。しかし値段が高く、1回2万円円で計4万円かかる。どうするか聞かれたため、もちろん安い生ワクチンをお願いした。

ワクチンの値段が高いことが今後の課題だと思っており、接種が普及しない原因である。我が党でも国による定期接種を求めているが、やはり市町村による助成が大事であり、現在、全国37市町村で公費を助成している。県内はまだその認知度が低く、公費を助成している自治体がないため、今後進むことを願っている。

しかし、一般市民の認識として、带状疱疹ワクチンを知っているとの回答は15%しかないため、インフルエンザワクチンの認識率である86%程度まで近づけていくことが大事だと思う。ともあれ、带状疱疹の対策としては、早期受診と早期治療が非常に重要である。

そこで、带状疱疹の疾病特性及びその予防と早期受診について周知を図るべきと思うが、県の考えを聞く。

保健福祉部長

带状疱疹は合併症や後遺症のおそれがあることから、早期治療の重要性などについて、県民の理解を深めてもらうことが重要と認識している。現在、国においてワクチンの定期接種化を検討しており、その状況を注視するとともに、带状疱疹の疾病特性や予防、早期受診の大切さについて、各種広報媒体を活用し、きめ細かな周知に努めていく。

伊藤達也委員

带状疱疹の症状が出た場合、72時間以内に全身抗ウイルス療法を行えば痛みの消失が早くなるとされているが、半数以上が2日間以内に受診していない。少しおかしいと思っても数日間放っておいたために痛みが続く状況もあるため、带状疱疹等の湿疹が出たらすぐに受診するよう簡単で分かりやすくしっかり周知すべきと思うが、どうか。

保健福祉部長

带状疱疹は基本的に中高年者がかかる病気であり、対象者が高齢であることを踏まえ、県の広報誌、ホームページや市町村の広報誌などといった紙面を幅広く活用して周知に努めていきたいと考えている。

伊藤達也委員

それのみでは弱いため、もう少し検討してもらいたい。様々な場所での周知がやはり大事であり、私も70～80歳代の者から勧められてワクチンを接種した。高齢になってくると、老眼もあり広報物を読むのもなかなか大変だと思うため、努

力願う。

次に、犬猫の譲渡推進に向けた情報発信について聞く。

私は当選以来、自称アニマル伊藤として本当に千本ノックのように質問をしてきた。それに一個一個答えてもらい、今までに動物愛護に特化した寄附金制度の創設や猫の適正飼養についてのパンフレットの作成、動物愛護センターへの立派な譲渡会ができる会議室の設置、動物愛護センターから譲渡する動物へのマイクロチップ装着、また、民間から寄附を受けて全警察署にマイクロチップリーダーを装備することで、迷い犬が見つかってうれしいとの報告を毎回もらっている。本当にありがたく思う。これは保健福祉部、特に、私はチームアニマルと呼んでいるが食品生活衛生課の貢献、尽力だと思っている。

しかし、ここで終わることなく次の手をしっかりと打っていかねばならないと思っている。殺処分を減らすためにはやはり譲渡率を上げることが大事だが、そのためには、保護した動物の情報をしっかりと発信することが重要であり、ホームページやSNSによる広報の充実を図り、さらなる譲渡を促すべきだと思っている。

そこで、県は犬猫の譲渡推進に向けた情報発信の強化にどのように取り組んでいくのか。

保健福祉部長

譲渡対象の犬猫の情報については、動物愛護センター等のホームページに、写真とともに性別や推定年齢のほか、感染症等の血液検査の結果についても掲載し、詳細な情報発信に努めている。

今後は、身体的特徴や健康状態が分かるよう、新たに動画の掲載を予定しており、引き続き、譲渡を推進するための情報発信にしっかりと取り組んでいく。

伊藤達也委員

誕生日プレゼントに感謝する。動画は非常に大事だと思っている。今は動画の時代になっており、チャンネル登録者数は6人だが、私も8月からユーチューブを始めた。やはり動画で見ることによってその動物を飼いたいと思う者もいると思うため、しっかり取り組んでもらいたい。

先ほど述べた譲渡率が非常に重要であるが、令和2年度及び3年度における犬猫の譲渡率のそれぞれの実績を聞く。

保健福祉部長

令和3年度における犬の譲渡率は60.1%、猫の譲渡率は26.8%となっており、いずれも2年度と比較して増加している。

伊藤達也委員

殺処分を減少させるためには、引取数を減少させていくことが大事だと思っている。譲渡率が上昇しても、引取数が増加していけば殺処分数も増加していくため、動物愛護センター及び関係職員は、動物が持ち込まれた際に終生飼養することを必死に説得して引取数を減少させていると聞いている。動物愛護に関わる者は各方面から文句や嫌な言葉を言われると思うため、保健福祉部として激励しながら進めてもらいたい。

最後に、殺処分数を減少させる部長の決意を聞く。

保健福祉部長

動物愛護センターや食品生活衛生課のチームが中心となり、殺処分数の減少に向けてしっかりと取り組んでいきたい。

伊藤達也委員

続いて、次世代航空モビリティの実証空域確保について商工労働部長に聞く。

福島ロボットテストフィールドが整備され、空飛ぶクルマや無人航空機、ドローン等の開発企業が集まってきている。しかし、福島ロボットテストフィールドの場周区域だけでは狭く、空飛ぶクルマやジェットエンジンを積んだ無人航空機であれば旋回しただけでもはみ出してしまう。しっかりと実証空域を確保することが次世代航空分野で本県が生きる道であり、他県との分捕り合戦にもなっているため、しっかり進めてもらいたい。

例えば鉄塔や電線がなく、落下しても回収可能な砂地や牧草地、ゴルフ場の跡地などの土地に2km×2km程度の空域が必要であり、また、Wi-Fiやトイレ、電源、夜間の保管施設、滑走路も必要になる。加えて、試験時に技術や情報が

外部に漏れないような秘匿性の高い場所であることも条件だと思っている。このような場所は全国的にないため、本県で早く見つけることが今後の成長戦略だと思っている。あわせて、次世代航空の2点地域の試験飛行の安全なルートの確保やその運航に関する規制緩和についても、県としてしっかり提案を急ぐべきだと思っている。

そこで、県は次世代航空モビリティの試験環境整備にどのように取り組んでいくのか。

商工労働部長

福島ロボットテストフィールドにおいて、南相馬市と浪江町の滑走路を結ぶ飛行試験ルートの設定に取り組むとともに、福島浜通りロボット実証区域において試験を行う事業者への場所の提案や地域との調整、技術的助言等を通して実証試験の実施を支援している。

引き続き、事業者の要望を丁寧に聞きながら、試験環境の整備に取り組んでいく。

伊藤達也委員

ドローンでは2地点間の飛行を実施していると思うが、空飛ぶクルマも今後非常に有効であるため、有人飛行も含めてしっかり2地点の飛行ルートを決めてもらいたい。

私も県内で探しているが、なかなか見つけられない。しかし、2度訪問した中間貯蔵施設は砂地も線量が低く、人も住んでおらず物もない。2045年の最終処分に向けて様々な工事があり、また減容化、再生利用に向けた取組も進んでいる。そこはしっかりと進めてもらいつつ、毎日使うわけではないため、必要ときに調整をして飛べるようになればよいとの思いで見えてきた。地元との調整等もあると思うが、ピンチをチャンスに変えることが大事であり、しっかりとその辺りも進めてもらいたいと思うため、よろしく願う。

最後に、知的財産の活用支援についてである。

福島ロボットテストフィールドに様々な企業が進出してきているが、特許を取得していないと、後から資金が必要となったり開発が止まってしまうため、しっかりと伴走支援をすべきだと思っている。企業向けの知財塾の開催や弁理士による伴走支援、さらには大企業が持つ休眠特許のコーディネートが必要である。

そこで、県は企業の開発段階からの知的財産の活用をどのように支援するのか。

商工労働部長

これまで、セミナーの開催による意識啓発や人材育成、専門家派遣による技術・知財の伴走支援などを実施してきた。今年度はふくしま知財戦略支援センターの設置により、取組を一層強化するとともに、開放特許等を活用した新製品開発のための広域マッチング支援に取り組むなど、開発段階から事業化を見据えた知的財産の戦略的な活用を支援していく。

伊藤達也委員

開発のマッチングは本当に素晴らしいことだと思っている。部長を中心に協議会を設立し、また、計画も作成して本当に素晴らしい発展をしているため、今後も引き続き、知財の戦略によるイノベーションの推進をよろしく願う。

以上で質問を終わる。